

何かを始めるきっかけマガジン

# 緑エンジン

PLUS  
engine

2023.1.1

vol.32

contents

[特集]

あなたの“好き”を見つけよう

身近な出発点 Part 2

地域活動のきっかけとなる  
公共施設・  
コミュニティスペースを  
ご紹介!

子育て支援センター  
Popola

都筑民家園

横浜市歴史博物館

つづき地域活動ホーム  
くさぶえ

シェアリーカフェ

Challenge!



特集

あなたの“好き”を見つけよう!

# 身近な出発点 Part 2

今回の縁ジンは、都筑区内にある施設を5カ所ご紹介します!  
自分の“好き”を活かして活動できる場所が、都筑にはたくさんあります!

えっ、ここでなにか活動ができるの?と思った方、  
ぜひ記事を読んでみてくださいね♪

※特集は、全て「市民ライター養成講座」を受講した市民ライターが記事を書いています。

## 子育て支援センター Popola(ポポラ)

都筑区に2カ所ある子育て支援拠点。  
妊娠中や子育て中の方が気軽に立ち寄り、自由に過ごせる子育ての休憩所のようなところ。好きなことを活かしてポポラで活動するボランティアも募集しています。



## 都筑民家園

日本の伝統や四季を学んで楽しめるイベントを開催しています。大塚・歳勝土遺跡公園内にあり、歴史を身近に感じられる場所です。ボランティアとして文化交流に携わることもできます。



## 横浜市歴史博物館

毎月様々なイベントを開催しており、大人も子どもも楽しみながら歴史について知ることができます。ボランティア制度もあり地域の人と協力しながら横浜の歴史を伝えています。



## つづき地域活動ホーム くさぶえ

障害のある方とご家族の地域の拠りどころとして活動している施設です。ボランティアと協力して地域交流のイベントを行ったり、地域の方が使える貸館も行っています。



## シェアリーカフェ (NPO法人 Love つづき)

横浜・都筑がもっとステキなまちになるための「まちづくり」をしているNPOが運営しているコミュニティスペースです。地域の人たちが気軽に利用、交流できます。



身近な出発点

1

子育てと地域が出会う場所

## 都筑区子育て支援センター Popola (ポポラ)

子どもを遊ばせながら、安心しておしゃべりできる。ほしい情報に出会える。子育て中の人でもそうでない人も、子育てと地域との出会い、見つげませんか？

取材・写真・文=市民ライター・木村直美



たくさんの親子が訪れるひろば（ポポラ）

### 子育てのサービスエリア！ どんな人も立ち寄れる場所

オープンな入り口からすぐに見えるのは、様々な情報がカテゴリごとに整理された情報サロン。おもちゃや絵本のあるひろばの様子は外からもガラス越しにのぞくことができる。ひろばではこの日も、たくさんの親子が思い思いに過ごしていた。都筑区子育て支援センターPopola（以下、ポポラ）は、センター北駅直結の、子育てに関わる・関わりたい全ての人を対象とした施設。「ポポラはサービスエリアのようなところで、ここに来る目的は人それぞれでいいんです」と話す副センター長の武智絢乃さん。子育て中の親子がほっと休憩する場所、楽しみや新しいことを発見する場所。サービスエリアという言葉には、どんな人もふらっと立ち寄れる場所であるように、という願いが表れている。

広報紙『ポポラペーパー』を開くと驚くのが、そのイベントの数である。ららぽーと横浜にあるポポラサテライトも含めると、毎日のように様々なテーマのイベントが開催されており、取材に伺った月は実に26のイベントが予定されていた。イベントなどを手伝うボランティアも募集しているので、子育て中の方も子育てを応援したい方もぜひ気軽にのぞいてみてほしい。



穏やかに利用者への深い思いを話してくださった  
武智さん

明るく気さくなチャルラス  
都筑の久我ルジダーさんは  
タイ出身



### 不安を安心・楽しさへ 子育てと地域をつないでゆく

ポポラの子育て支援は変化するニーズにも対応し、幅広い。中でも外国籍の方への支援は、最近力を入れていることのひとつだそう。子育て中の外国籍の方を支援する“母と子ども”の団体「チャルラス都筑」が月に1回ひろばで活動を行っている他、ポポラも英語でのイベントを開催したりと、言葉の通じない国で子育てをする不安を軽減するために、地域の団体とつながり様々な取り組みを行っている。取材をする中で印象的だったのは、一方的に支援するだけではなく、外国籍の方々に母国の文化を紹介してもらうなど、支援する側・される側という垣根を越えたつながりを紡いでゆくポポラの姿勢だ。これはイベント運営にも通じるもので、同じような立場で悩みを持つ人同士が安心して話せる場づくりを大事にしている。

「当事者同士でつながっていくことが大事」と話す武智さん。ポポラをきっかけに人と地域とつながり、安心して子育てをしていく利用者さんの「その先」を見据えて、ポポラは進化を続けている。

ポポラの魅力は、  
安心・リラックス！  
子どもを遊ばせながら安心して  
話ができ、保育園のことなど  
知りたい情報にすぐにアクセスできることが  
本当に素晴らしいです。外国籍の人をつなげる活動をしています。私自身も  
ポポラで知り合った人が  
今では親友なんです。



ゆったりくつろげるお茶の間サロン  
（ポポラサテライト）

### 都筑区子育て支援センターPopola



☎ 045-912-5135

FAX 045-912-5160



[所在地]

都筑区中川中央1-1-3  
ショッピングタウンあいたい5F  
（横浜市営地下鉄「センター北」駅より  
徒歩2分）

[利用時間]

10：00～17：00  
（ひろばは16：00まで）

[休館日]

日・月・祝日・年末年始

[主な施設]

ひろば、情報サロン、コミュニティルーム、和室（個別相談などで利用可）

※ポポラサテライトは三井ショッピングパークららぽーと横浜3Fにある

掲載した施設の利用時間、休館日について詳細は二次元コードをご確認いただくか、お問い合わせください。

身近な出発点

2

## 四季を感じて伝統文化を体験 都筑民家園

センター北駅から徒歩約8分、閑静な住宅街そばに都筑民家園はある。こだわりの五節句の展示や懐かしい四季折々のイベントが多世代で気軽に楽しめる。

取材・写真・文＝市民ライター・白井淳子

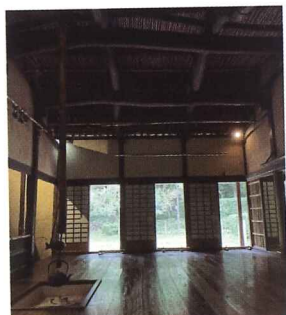


衣装はお揃いの法被（はっぴ）。季節や年代に合わせた選曲も楽しみだ

### 本格的な年中行事 後世に伝えていく活動

都筑民家園は大塚・歳勝土遺跡公園内にあり、横浜市指定有形文化財にも指定されている江戸時代の古民家「旧長沢家住宅」の主屋及び馬屋を中心とした施設だ。移築当時、物を置いた展示ではなく人に活用してほしいという所有者の思いがあり、季節ごとの行事やイベントで歴史ある古民家を活用している。「コロナ禍で制約はあるが子どもたちにも季節の料理の意味や風習を楽しみながら学んでほしい」と語ってくれたのは都筑民家園事務局長の木村格さん。「新しい企画やイベントもここで活動している人が協力、分担して維持されている」と活動ボランティアの力が支えになっていることも教えてくれた。作業系ボランティアは畑を整備する園芸クラブなど4つあり、現在100名の登録者がいる。

イベント系のボランティアは、ここを拠点に活動する人たちだ。いろいろおはなし会、お茶室行事、しの笛の会など9つあり平均7-8名の登録者がいる。「ここでボランティアをしたい場合は、気軽に聞いて下さいね」と話す事務局長代理の浅見美千代さんに、気になることはなんでも相談できそうだ。



### 週1回のしの笛コンサート 教わり、教えて 24年

今回イベント系のボランティアの一つ「都筑しの笛の会」副代表の大谷美和子さんにお話を伺った。しの笛は日本のお祭りでも使われる横笛の一種。しの笛コンサート「しの笛の朝」は古民家の広間で毎週土曜日に開催される。大谷さんがしの笛を始めたきっかけは民家園開園記念事業「しの笛講座」。現在は15名の仲間と民家園を拠点に活動している。「定期的に通り季節の移り変わりやイベントのお手伝いの楽しみがあったから長く続けてこられた」と話してくれた。

民家園にはエアコンがないので冬は厚着して、夏は扇風機を借りての演奏もここならではの醍醐味ようだ。活動の場は民家園に依頼された高齢者施設でのコンサートや、ワークショップで邦楽器の紹介、区民まつりなどここを拠点に活動の場を広げている。コンサートの後の清掃や草とり、年末の大そうじなど民家園の維持にも協力している。

ボランティアの形はいろいろあるが、歴史的な建築物で日本の伝統文化を気軽に楽しめる機会があることは、あなたの活動を見つけていくことにつながるだろう。新しいこと、始めてみませんか？



茅葺きの古民家は  
それぞれの楽しみ方で  
楽しめます

上/四季を感じてほしいと話す事務局長の木村さん  
左/風通しがよく広々とした建物内は自由に見学できる

次世代の担い手を増やすため  
2022年は民家園と相談して  
久々にしの笛講座が開催されました。  
しの笛を吹くと呼吸が整って  
健康増進にもなります。  
コンサート当日直前は  
演奏者で音合わせ練習ができます。  
周りを気にせずに音を出せるのが  
良いところです。



豊かな音色を聞かせてくれた大谷さん

#### 都筑民家園



☎ 045-594-1723

FAX 045-594-2019



[所在地]

都筑区大圃西2番  
(横浜市営地下鉄「センター北」駅下車  
徒歩8分。横浜市歴史博物館から遊歩道  
利用可)

[利用時間]

9:00~17:00  
(公園部分は24時間オープン)

[休館日]

第2・第4月曜日(休日の場合は翌日)  
年末年始

[主な施設]

主屋・馬屋・茶室

身近な出発点

3

歴史を超えた文化スポット

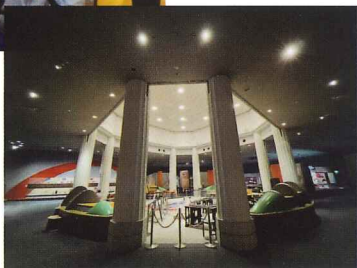
## 横浜市歴史博物館

横浜市の歴史がわかりやすく見応えがあると評判の横浜市歴史博物館。地域活動とは縁遠いイメージだが、実は活動団体は多い。市民の活躍の場でもある。

取材・写真・文＝市民ライター・後藤智子



歴博イベント。もりあげ隊の缶バッジワークショップは大盛況



スタディサロンを中心に据えた常設展示室。円形の展示は珍しい

### 歴史に親しむ工夫が満載 新たな可能性にもチャレンジ

センター北駅から徒歩5分。シンボルロードの先に緑色の三角屋根の建物が見える。横浜市歴史博物館、通称「歴博」だ。歴博は1995年に開館。国指定の史跡“大塚・歳勝土遺跡公園”に隣接し、古代からの横浜の歴史を学べる博物館だ。個性的なのは時代ごとの展示が円形に配置された常設展示室。円の中心にはスタディサロンと呼ばれるフリースペースがあり自分スタイルで鑑賞できる。展示のジオラマは子どもにもわかりやすいと評判だ。

歴博はイベントも豊富で歴史講座からワークショップまで年間30を越える。2009年以降はジャンルを超えたイベントにもチャレンジ。2018年よりバロックコンサート、2019年には横浜ピー・コルセアーズのパブリックビューイングを開催し、地域により開かれた存在を目指す。「2024年度に都筑区民文化センターができて、より地域が賑わいます。今後は社会や地域の課題に対応できる場を目指していきたいです。博物館活動を行いながら、地域とつながりまちを元気にするお手伝いができれば嬉しいです」と、将来を見据える副館長の刈田均さん。歴博のこれからが楽しみだ。

縄文人にとって  
ここはニュータウンでした



副館長刈田さん。港北ニュータウン発掘調査の話もして下さった

地域とつながろうと  
歴博の活動に参加したのがきっかけ。  
「もりあげ隊」と言いながら  
私たちが方が歴博に盛り上げて  
もらっています

イベント企画は  
苦労も多いですが、仲間と  
乗り越えるのは楽しみのひとつ。  
人間力を養わせてもらっています

### もりあげ隊は最強バディ 市民目線で強力サポート

歴博では市民活動も盛んだ。ボランティアをはじめ、講座のOBなどから組織された関連団体も複数存在する。中でもユニークなのが2013年に発足した横浜歴博もりあげ隊だ。「多くの人に歴博に来てもらえるようにすることが私たちの使命です」。こう話すのは横浜歴博もりあげ隊代表幹事の佐伯良江さんと副代表幹事・杉木美樹子さん。もりあげ隊は独自の発想で来館者増を試みる。歴博イベントでは親子向けの缶バッジのワークショップを開催。もりあげ隊主催の歴史講演会では旬のテーマを扱う。バロックコンサートも、もりあげ隊の主催だ。2022年は講堂で開催。講堂での音楽イベントは初で歴博の新たな可能性を見出した。

さらに来館者アンケートを実施し、市民目線の提案もする。時には辛口アドバイスもするそうだが刈田さんとの会話は和やかだ。「みなさんにもっと歴博を好きになってほしいです。歴博の方々の知る機会があれば、きっと好きになるはず…」。取材を受けながら佐伯さんと杉木さんは新たなアイデアを思いついたようだ。歴博ともりあげ隊、素敵な関係を築いていると感心した。



佐伯さん(右)と杉木さん(左)。歴博の活動を通してつきあいは20年になる

#### 横浜市歴史博物館



☎ 045-912-7777

FAX 045-912-7781



[所在地]  
都筑区中川中央1-18-1  
(横浜市営地下鉄「センター北」駅下車  
徒歩5分)

[利用時間]  
9:00~17:00  
(券売は16:30まで)

[休館日]  
月曜日(祝日振替休日の場合は翌日)、  
年末年始

[主な施設]  
常設展示室、企画展示室、図書閲覧室、  
体験学習室、講堂、ミュージアムショップ

福祉施設を拠点とした地域交流事業

つづき地域活動ホームくさぶえ

緑道沿いに建つ、つづき地域活動ホームくさぶえ（以下、くさぶえ）は障害のある方とご家族の地域の拠りどころとして活動している。

取材・写真・文＝市民ライター・新井尚幸



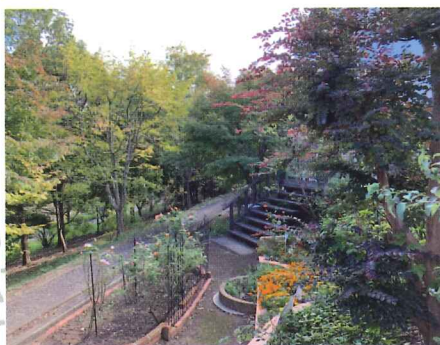
上／ポーチなど人気のさをり織り商品の一部。鮮やかな色味が特徴だ  
左／利用者さんと制作した「さをり織り」の生地



20周年の記念行事で賑わう  
地域交流活動の拠点

くさぶえは主に障害者を対象とした活動を展開し、2022年5月に20周年を迎えた。記念樹の植樹、ペットボトルキャップを使った20周年の看板などを制作し、利用者・職員が一丸となり節目を祝った。親子が遊べるフリースペース「おもちゃ文庫」では、「絵本の楽しさや親子の時間」をテーマに未就学児を対象にした「おはなし会」を月1回行い、多くの方が参加している。現在は感染症対策により参加人数を制限しているので興味のある方は施設へ直接確認してほしい。

また、施設内の「地域交流室」はコミュニティ活動やボランティア活動など、団体登録をすれば利用可能だ。個人利用は事前確認が必要だが、利用者だけでなく様々な方へ活動の場として開放されている。今回取材をした地域交流事業担当の今平佳奈子さんに施設内でお勧めの場所を尋ねたところ、バルコニーから眺める緑道を紹介していただいた。地域交流活動を機にボランティアさんがお手入れをしている花壇もあり、季節の移り変わりを感じることができる。



緑道の移ろいに四季を感じる



取材に応じてくれた今平さん

さをり織りがつなく、  
くさぶえと地域との交流

日中活動の利用者さんが18年間取り組んでいる「さをり織り」は、一般参加の織り物体験イベント時には申し込みが殺到する人気となっている。お話を伺ったボランティア団体「夕鶴の会」は、利用者さんが織った生地の商品化を始めて17年目を迎えた。毎月3回ほど活動を行い、バッグやポーチなどの小物類を商品にしている。夕鶴の会はニットソーイング教室の卒業生で構成されており、学んだ知識を活動に活かして商品化を行っている。さをり織りを使ったクマのぬいぐるみを専門に制作する個人ボランティアの太田さんも活動に興味を持ち参加している一人である。

くさぶえでは他にも、地域訓練会、音楽療法、書道、和太鼓など、全15団体の活動を応援している。このように、くさぶえは利用者だけでなく、地域の方やボランティアとの連携で新たな価値づくりに取り組んでいる。商品化した製作物は、施設内の展示コーナーだけでなく、地域のイベントなどでも購入することができるので、目にした際はぜひ手に取ってご覧いただきたい。

趣味を通して

ボランティア活動に参加でき、こんなに楽しいことがあってよいのかと毎回活動日が待ち遠しいです。楽しく活動していたらあっという間に17年経ってしまいました。自宅で作った洋服なども見せ合いながら楽しく活動しています



左から個人ボランティアの太田さんと夕鶴の会の皆さん

つづき地域活動ホームくさぶえ



☎ 045-590-5778

FAX 045-590-5779



[所在地]

都筑区牛久保東 1-33-1  
(横浜市営地下鉄「センター北」駅徒歩8分)

[利用時間]

9:00～17:00 (1Fホール)

[休館日]

年末年始 (緊急対応のみ)

[主な施設]

日中活動・一時ケア・ショートステイ・地域交流・余暇活動支援・おもちゃ文庫



シェアトリエは月1,100円～利用可。  
ハンドメイド作品が多数並ぶ

身近な出発点

5

## あなたの好きを地域でシェア シェアリーカフェ

中川駅から徒歩3分。地域のあらゆる情報と幅広い人脈、  
あなたの“シェア活”の心強いサポーターがここに。

取材・写真・文＝市民ライター・木村奈保子

### 経験豊富な まちづくりNPOが運営

おいしい香りのするパン屋のあるビルの4階。小さな看板を頼りにビルのエレベータを上げる。印象的な星の形のライトに導かれて足を踏み入れると、スタッフの川本智子さんが笑顔で迎えてくれた。店内は、広い窓から太陽光が入って明るく、木製のテーブルと椅子があり、30人規模のイベントをすることができる広さがある。スペースを有料で借り、コーヒーやお茶はセルフサービスとなるため、「カフェ」と言っても、地域のシェアオフィスというイメージだ。

このシェアリーカフェを運営しているのは、特定非営利活動法人 Loveつづき（以下、Loveつづき）。川本さんもその一員だ。Loveつづきのメンバーが在駐しており、利用者の活動がさらに広がるように地域の人や情報を紹介するなどの“橋渡し役”がシェアリーカフェの強みだという。また、民間施設のため、区役所などでは取り扱えない一般の方のチラシなども受け付けており、地域の多種多様な情報が集まってくるという。広いスペースでは、プログラミング教室やハンドクラフト教室が開催されたり、週1回「スローカフェ」というシニアのための生活支援補助事業の拠点にもなったりしているそう。



名前の由来は「エア＝空間」を「シェア＝分け合う」からシェアリー。

自分の住む地域が好きという方が増えてほしいと語る川本さん

### 一歩踏み出すと 地域とつながる実感が

店内に様々な商品が並ぶ、賑やかな一角がある。地域で生まれる商品、作品等を地域ブランドとして開発し、販売を促進するための「シェアトリエ」だ。

この日私が取材をしたのは、中川在住のイラスト作家、安藤裕子さん。シェアトリエで、イラストをポストカードなどにして、販売している。

「元々絵を描くのが好きで、子育てをしながら、趣味で作品づくりをしていました。忙しい日々の中でも、自分の好きなことをやった方が楽しそうと、思い切って作品の販売を始めてみました。『こんな方が購入されたよ』という話をスタッフの方が詳しく教えてくださるので、地域の人とつながっている実感があります」。安藤さんの作品を気に入って10枚以上買っていく人もいそう。地域で生まれる作品が、地域で愛されるきっかけ作りのスペースとなっている。

何か自分の得意なことを発信したい方、もっと地域と関わっていきたい方、何をしたらよいか悩んでいる方も、ぜひ気軽に足を運んで相談してほしい。



電源やWi-Fi環境は勿論、プロジェクターなどの機材も貸出可

好きなイラストで何かしたいけど、  
どうしたら…そんな時に近所の  
シェアリーカフェを思い出しました。  
親切に相談に乗ってくれて、  
アドバイスのおかげで、  
地域のイベントに出店するなど、  
活動の幅が広がりました。  
一人で困ったときに相談できるのも  
安心です



作品と一緒に、  
すてきな笑顔の安藤さん

#### シェアリーカフェ



☎ 045-306-9004

FAX 同上



【所在地】

都筑区中川 1-17-22  
ガーデンプラザ宮台 402  
(横浜市営地下鉄「中川」駅徒歩3分)

【利用時間】

9:30～18:00(予約は19:00まで利用可)

【休館日】

月曜日(年末年始、ゴールデンウィーク、  
夏季休業あり)

【主な施設】

スペースおよび機材貸し出し、シェア  
トリエ(物品販売)

都筑区

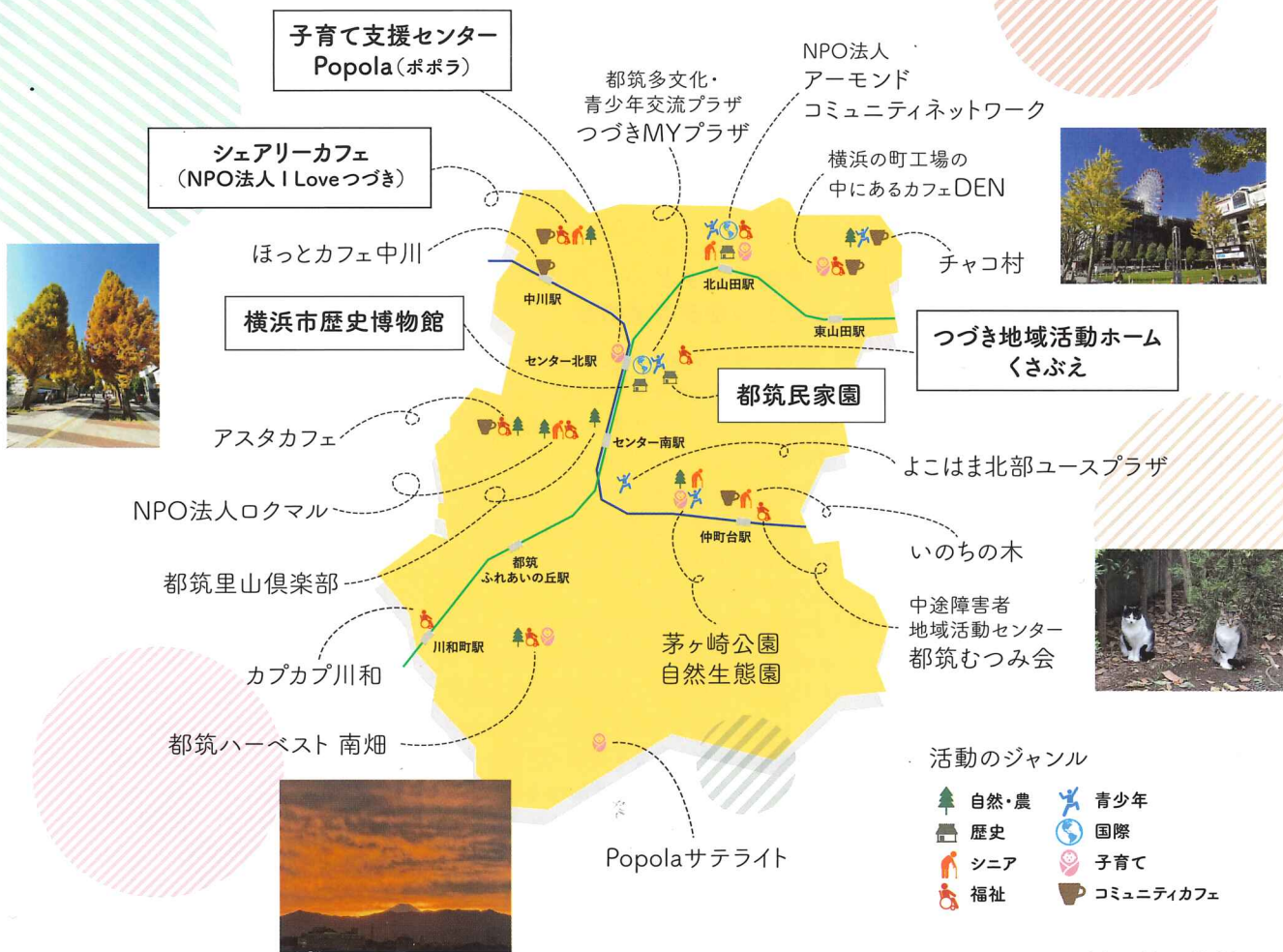
身近な出発点

# Map 2

31号、32号と2回にわたって地域で活動ができる施設をご紹介します。みなさんいかがでしたでしょうか？

今回取材したPopola、都筑民家園、横浜市歴史博物館、くさぶえ、シェアリーカフェの他にも、都筑区には活動のキッカケになる場所はたくさんあります。地図に掲載しているのでぜひチェックしてみてくださいね。

あなたの”好き”が広がりますように！



表紙写真撮影/後藤智子

## 編集後記



- ▶ 一歩先には、素敵な出会いと新たな発見が待っていました。出会えた皆さまに、感謝。(木村直美)
- ▶ お忙しい中取材にご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。(臼井淳子)
- ▶ 素敵な出会いと学びに感謝。都筑区には元気な人や活動がいっぱい！地元愛急増中です！(後藤智子)
- ▶ 今回の取り組みを通して市民活動とは何かを学び、新しい価値観を養うことができました。(新井尚幸)
- ▶ 子育てや家事の毎日、取材や執筆を通して徐々に“イキイキした私”とも出会えました。(木村奈保子)

## 区役所1F 都筑区民活動センター



区役所1Fの平面図



…歩行者自転車専用道路

何かを始めるきっかけマガジン「緑ジーン」2023年1月第32号  
編集/企画：都筑区民活動センター  
発行：都筑区役所地域振興課

## 問い合わせ 都筑区民活動センター

横浜市都筑区茅ヶ崎中央 32-1 都筑区役所 1 階

☎ 045-948-2237

✉ tz-katsudo@city.yokohama.jp

